

第6学年 国語科学習指導案

指導者 1組 峰 大基

2組 三根 文子

1. 日時 平成29年6月7日(水) 第5校時 13:35～
2. 単元名 「星野道夫さんからのメッセージを受け止め交流しよう」
教材名「森へ」光村図書 6年
3. 単元構想

<子どもの実態>

- これまで朝に交流タイムを継続して行ってきた。友だちに質問したり、答えたりする活動を積み重ねてきたことで考えを交流する楽しさを感じてきたように思う。しかし、友だちの考えと自分の考えのつながり見出ししたり、新たな考えを生みだしたりすることが苦手な子が多い。
- 「カレーライス」では、どの登場人物に共感できるのか交流をした。それぞれの立場を意識しながら叙述に基づき、自分の経験と比べながら意欲的に話す様子が見られた。しかしながら説明文や紀行文となると、難しく感じる子どもが多く、学習意欲が低くなることもある。

<教師の願い>

- 自分の思いを素直に自信をもって表現してほしい。
- 友だちの考えを自分の考えと比較しながら聞き、理解したことや思ったことを相手に伝えられるようになってほしい。
- 出た意見や考えをすり合わせたり、自分の考えに生かしたりするなど、話し合ったことで考えが深まったり広がったりする経験を積み重ねてほしい。
- かけ離れた読みにならず、自分の生活と比べたり、引き寄せたりしながら読みの経験を自分の生活に生かしてほしい。

<身に付けたい資質や能力>

- 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり、深めたりすること。(オ)

<教材の特徴>

優れた情景描写の表現が多く、読み手の想像力を働かせやすい。また、魅力的な写真が効果的に盛り込まれ、「森」という神秘の世界観を味わいやすいため、一人一人が自由な発想で考えをもちやすい。

<主たる言語活動>

- 掲載されている写真にタイトルをつけ、交流する。
- 星野道夫さんの思いを想像し、全体交流によって考えを深めたり広げたりする。

4. 単元目標

「森へ」に込めた星野道夫さんのメッセージを自分なりに受け止め、友達との交流によってその考えを広げたり深めたりすることができる。

5. 評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
星野さんの作品に込められた思いについて関心をもって教材文を読んでいる。	「森へ」の文章を読んだり、写真を見て考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりしている。(オ)	自分の考えを明確にして、語句と語句の関係に気をつけて文章を読んでいる。イ(カ)

6. 一人一人が楽しく取り組む国語学習に向けて

(1) 魅力ある単元づくり

高学年として「楽しい国語学習」とは、友だちとかかわり合うことで、自分の考えに広がりや深まりが見られる学習だと考えている。そのためにも形式的な話し合いでなく、意欲的に自分の考えを語り、その考えを受け止めて共に考えていける力を育てていきたい。

本単元では、単元との出会いを工夫した。『森へ』の作者である星野道夫さんはアラスカを中心に活動した写真家である。その一枚一枚が魅力的で、見る人の心をうつものが多い。その写真を導入として、子ども達に提示する。感じたことを自由に交流し合うことで、写真を通して星野道夫さんの思いや考え方に関心をもてるようにしていきたい。

6年生では、総合的な学習の時間に「これからの自分」ということを大きな年間テーマとして設定している。これまでの様々な出会いが今の自分をつくり、これからの自分をつくっていく。それと同じように、1年間の生活や学習の中で経験する出来事や出会う人物もその一つとして位置付け、カリキュラムを工夫した。生き方や考え方に触れることでこれから先の自分の未来に生かして行ってほしい。本単元での『森へ』の写真や叙述を通して、写真家である星野道夫さんの生き方に触れていく。子どもたちなりの受けとったメッセージを尊重しながら、生き方や考え方など感じたことをこれから先の自分の未来に生かして行ってほしい。

(2) 主体的・対話的で深い学びへのアプローチ

①単元全体への見通しをもたせる

単元の導入で「星野道夫さん伝えたい思いを考えよう」と単元を通した読みの課題を設定した。学習に見通しをもたせることで、一つ一つの時間に目的意識が生まれ、意欲をもって学習に取り組めると考えた。

②グループ交流の位置づけ

初めは小グループメインに交流することで考えたことや読み取ったことを自信をもって話せるようにしていく。学習を積み重ねる中で少しずつ小グループの時間を短くし、全体での交流を活発

に行えるようにしていきたい。

③写真へのタイトル

星野さんが伝えたいメッセージを考えるために、写真からの読みを資料として位置づけた。写真家だからこそ、その一枚一枚に思いが詰まっていると考えている。内容とかけ離れた読みとならないように、叙述をヒントにタイトル付けを行っていく。読んだことをもとに、思ったことを活発に表現できるような活動にしていきたい。

(3) 日常活動の生かし方

①心の記録

6年生の総合的な学習の年間テーマである「これからの自分」に基づき、運動会など自分の成長につながったことを心の記録としてファイリングしてきた。星野道夫さんの考え方や生き方も、これからの自分に生かす出会いの一つとして位置づけている。星野道夫さんからのメッセージを受け取るだけにとどまらず、自分の生活とどのように結びつき、生かしていけるかも考える視点としていきたい。そして、積みかねてきたことをもとに、卒業文集や巣立ちの会などの中でこれまでの自分の成長や未来を語るようにしていきたい。

②交流タイム

交流する意味を確認し、4月より朝の時間を活用して自分の思いを伝えたり、考えをつなぎあったりする活動を行ってきた。ただ自分の考えを伝えるだけでなく、子ども達同士で考えをつなぎあったり、共通点を見いだしたりしながら考えが深まっていくような交流にしていく。

7. 指導計画（8時間扱い）

次	時	評価規準☆評価方法	学習活動	指導上の留意点
一	1	【関】 星野さんの作品に込められた思いについて関心をもって教材文を読んでいる。	○星野道夫さんの紹介を聞く。 ネットで調べたり、教師の話を聞いたりする。 ○「森へ」教師の範読を聞き、感想を書く。 ○自分の好きな写真を1枚選び、選んだ理由について交流する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 紀行文という文種を確認する。 ・ 星野道夫さんの生涯を話すことで作品に込められた思いについて関心をもてるようにする。 ・ 同じ写真を選んでも、様々な理由があることを知ることができるようにする。
	2			
写真に込めた星野道夫さんのメッセージについて考え、交流しよう。				
<p>学習の見通し</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 『巨木』の写真から読み取れることを交流する。 ② 『白いキノコ』の写真から読み取れることを交流する。 ③ 『クマ』の写真から読み取れることを交流する。 ④ 『古い倒木』の写真から読み取れることを交流する。 ⑤ 星野道夫さんからのメッセージを考え、交流する。 				
			○叙述や星野さんの思いを考えながら写真にタイトルをつける。 ○『巨木』の写真にタイトルをつける。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本文とかけ離れたタイトルにならないように、叙述をヒントにするように伝える。 ・ 教材文をよく読み。星野さんの思いを感じ取りながら写真を見るように指示する。
『巨木』の写真につけたタイトルを、友だちと交流しよう。				
二	3	【言】 自分の考えを明確にして、語句と語句の関係や構成を工夫して文章を読んでいる。 イ（カ）	○グループで自分がつけた写真のタイトルについて交流する。 ○全体で交流する。 ○再度タイトルを付け直し、学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友だちの考えのよいところや自分との相違点を見つけながら交流するように声をかける。 ・ 全体交流をした後に、学習のふり返りをしながらもう一度タイトルをつける時間をつくり、考えの広がりや深まりに気付くことができるようにする。

			<p>○『白いキノコ』の写真にタイトルをつける。</p>	
	4	『白いキノコ』の写真につけたタイトルを、友だちと交流しよう。		
			<p>○グループで自分がつけた写真のタイトルについて交流する。 ○全体で交流する。</p> <p>○再度タイトルを付け直し、学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友だちの考えのよいところや自分との相違点を見つけながら交流するように声をかける。 ・ 全体交流をした後に、学習のふり返りをしながらもう一度タイトルをつける時間をつくり、考えの広がりや深まりに気付くことができるようにする。
	5	『クマ』の写真にタイトルをつけ、友だちと交流しよう。		
	本時2組	<p>【読】 写真を見て考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりしている。 (オ)</p>	<p>○写真にタイトルをつけ、全体で交流する。</p> <p>○星野さんの思いについて交流する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交流の場面では、タイトルを一つにまとめていくのではなく、一枚の写真から様々な考えが出てくることや考えの相違点に焦点をあてていく。 ・ 共通するキーワードを整理し、板書する。

6		<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">『古い倒木』の写真にタイトルをつけ、友だちと交流しよう。</p> <p>【読】 写真を見て考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりしている。 (オ)</p>	<p>○写真にタイトルをつけ、全体で交流する。</p> <p>○星野さんの思いについて交流する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交流の場面では、タイトルを一つにまとめていくのではなく、一枚の写真から様々な考えが出てくることや考えの相違点に焦点をあてていく。 ・ 共通するキーワードを整理し、板書する。
三	7	<p style="border: 3px double black; padding: 5px; text-align: center;">写真に込めた星野道夫さんのメッセージについて考え、交流しよう。</p> <p>⑧【読】 1 友だちと考えを交流したことを通して、星野道夫さんが伝えたメッセージについて自分の考えを広げたり、深めたりしている。(オ)</p>	<p>○これまで学習したことを生かして、星野道夫さんが伝えたいメッセージについて自分の考えを書く。</p> <p>○自分の考えをグループで交流する。</p> <p>○グループ交流をしたことをもとに自分の考えを見直す。</p> <p>○全体で交流する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの学習を振り返りながら星野さんの伝えたいメッセージとは何かを書けるように声かけをする。 ・ ・ 友だちの考えのよいところや自分との相違点を見つけながら交流するように声をかける。 ・ 友だちのキーワードなどを自分の考えに生かし、まとめられるようにする。

8. 本時の指導 6年2組 (5/8)

(1) 目標

写真や文章に込められた星野さんのメッセージについて、友だちとの交流を通して自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。

学習活動	指導上の留意点○と評価
1. 前時の学習内容を振り返る。	○自分の考えと比較しながら交流する。 ○本時の学習内容と関連させられそうな項目を板書して残すようにする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">『クマ』の写真にタイトルをつけ、友だちと交流しよう。</div>	
2. P67 の写真に関連する文章を本文から見つけて読み、写真のタイトルとその理由を書く。 2. 全体で交流する。 3. 星野さんの思いについて交流する。 4. 学習のふり返りを書く。	○教材文をよく読み。星野さんの思いを感じ取りながら写真を見るように指示する。 ○自分なりの表現を大切にさせる。 ○何かを決めるのではなく、あくまで交流することを楽しませる。 ○必要に応じて授業者が話の内容を整理する。 ○クマの写真は、今までの写真とは異質であることを投げかけ交流のきっかけにする。 ○話の展開がずれたら修正をする。 ○発言の要点を板書しながら進める。 【読】 交流したことで自分の考えが広がったり、深まったりしている。 ☆発言、ノート

授業の視点

- ・友だちとの交流を楽しんでいたか。
- ・友だちの考えにふれることで、自分の考えが深まったか。

(1) 目標

友だちと考えを交流したことを通して、星野道夫さんが伝えたいメッセージについて自分の考えを広げたり、深めたりしている。

学習活動	指導上の留意点○と評価
<p>1. 写真に込めた星野道夫さんのメッセージについて全体で交流する。</p>	<p>○それぞれが感じ取ったメッセージを、キーワードだけ全員に配布することで、交流を広げるきっかけにする。</p>
<p>写真に込めた星野道夫さんのメッセージについて考え、交流しよう。</p>	
<p>・ぼくは、「命のつながり」が伝えたいキーワードかなと思いました。前に学習したことをつなげると、どの写真にも命がつまっていて、その命がつながりあって『森』が出来ていたからです。</p> <p>・私も△△さんと似ていて、「命」だと思いました。「森はさまざまな物語～」ということから森に住むそれぞれに生きていくための物語があることを伝えたいと思いました。</p> <p>・○○さんに質問で、○○さんがつけた「□□」っていうキーワードがぼくとちがって不思議に思ったのですが、そのキーワードにした理由は何ですか。</p>	<p>○必要に応じて授業者が話の内容を整理する。</p> <p>○自分が感じたキーワードをもとに交流するように声をかける。</p> <p>○話し方・聞き方を意識するように声をかけることで、考えをつなげながら交流ができるようにする。</p> <p>○交流が詰まった時には、考えの共通点が何なのか問いかけることで、キーワードが整理できるようにする。</p>
<p>2. 感じ取ったメッセージをもとに『森へ』のサブタイトルを考え、交流する。</p>	<p>○これまで学習したことを生かし、サブタイトルを付けることで、考えを整理したり、再構成したりできるようにする。</p> <p>○全体交流で交流する前に、グループ交流を設定することで、全員が自分の考えを話す時間を確保する。</p> <p>【読】</p>
<p>3. 単元全体を通してのふり返しを書く。</p>	<p>友だちと考えを交流したことを通して、星野道夫さんが伝えたいメッセージについて自分の考えを広げたり、深めたりしている。</p> <p>☆発言、ノート</p>

授業の視点

- ・友だちの考えにふれることで、自分の考えが深まったか。
- ・サブタイトルをつけることが考えを再構成したり、自分の考えを整理したりすることにつながったか。